

事業名 <sup>のいち</sup>野市総合公園整備事業  
(のいち動物公園整備工事)

〔自然生態系を再現した整備手法による、人と動植物のふれあい公園づくり〕

受賞機関 高知県南国土木事務所

事業実施期間 昭和62年6月13日～平成9年7月19日

事業費 7,768百万円

技術等の特徴と評価

公園内に太陽光発電装置を設置し、これを園内のし尿処理に活用するなど、ゼロエミッションを目標とした環境管理を行い、同時にこれを来園者に積極的にPRし、環境への意識の啓発を行った。また、動物の飼育空間について、自然の生態系群を尊重した整備を行い、環境教育の場として有効に活用するための工夫を行っている点が評価される。

事業の概要と効果

本動物公園は、人も動物もいきいきとできる場の創出を理念として整備をした。飼育・展示されるすべての動物について、動物サイドに立ち、バイオーム（自然の生態系群）思想を取り入れたパドックを採用したことにより、動物が本来見せる生態を保持し、同時に動物園の使命である希少種の繁殖にも成功した。

野市総合公園は、3世代が家族連れで楽しめる自然動物園を中心とした総合公園として、また、環境教育的施設として位置づけ、県都高知市の東方約16kmに建設した。

入場ゲートをくぐるとまず、動物科学館、レストラン等を備えた公園の核となる動物園センターがあり、その先には地形を活かした上下二段の敷地に、自然動物園が展開している。



ジャングルミュージアム



アフリカ・オーストラリアゾーン



キリンの視点から観察できるように設計された展望所

展示等において工夫している点は次のとおりである。

- ・滝を境に下段は、中央のピクニック広場を囲むように温帯の森、熱帯の森を配置し、そこに生息する動物たちが本来の生態を見せている。
- ・滝の上段には、約4,500m<sup>2</sup>のパドックにキリン・シマウマ等を混合展示したアフリカゾーンと、カンガルー・ワラビーが愛らしいオーストラリアゾーンを配置した。
- ・ジャングルミュージアム（熱帯雨林館）は、吹抜け3階建ての空間に中南米・東南アジアの熱帯雨林を再現し、エキゾチックなプロムナードのなか、そこに生息する動物や突然のスコールなどの演出により、五感すべてでジャングルを体験できる工夫をした。
- ・公園駐車場には、環境意識の啓発を図るとともに、技術の実用性を広く社会にPRすることを目的に、太陽光発電施設を建設した。公園内に設置されるため、周囲の景観にマッチするようにデザインし、飼育されている動物に影響のないことを確認のうえ最大発生電力70KWのシステムは年間約85,000KWを発電し、園内のし尿処理施設等に供給している。

なお、二次開園以降、夏休み中の来園者が昨年の2.6倍になった。

受賞賛助会員 (社)高知県建設業協会、ミタニ建設工業